〈外国語〉

主体的にコミュニケーションを図る児童の育成
―タブレット端末の活用をとおして―

大垣市立静里小学校　教諭　柴田　泰成

【概要】

私の願いは,多くの児童に英語を使ってコミュニケーションがとれる喜びを感じてもらい,児童に英語を好きになってもらうことである。しかし,4月児童の英語に対する意識アンケートを取ると,英語に対する教師の思いと児童の思いには大きな差があることが分かった。

本実践は,私が児童に英語を話すことを楽しんでもらうために試行錯誤した取り組みをまとめたものである。児童に英語を好きになってもらうためにコミュニケーションツールとして,タブレット端末を活用した。児童の「伝えたい」「話したい」という思いを具体化することや,興味・関心のある授業内容を作るためにタブレット端末は児童にとっても,教師にとっても欠かせないものとなっていった。このような実践を4月から継続して続けていくことで,英語を話せる嬉しさや,思いが伝わる達成感を児童が感じ,主体的にコミュニケーションを図る児童が増え,最終的には英語が好きと思う児童が増えた。

1.主題設定の理由

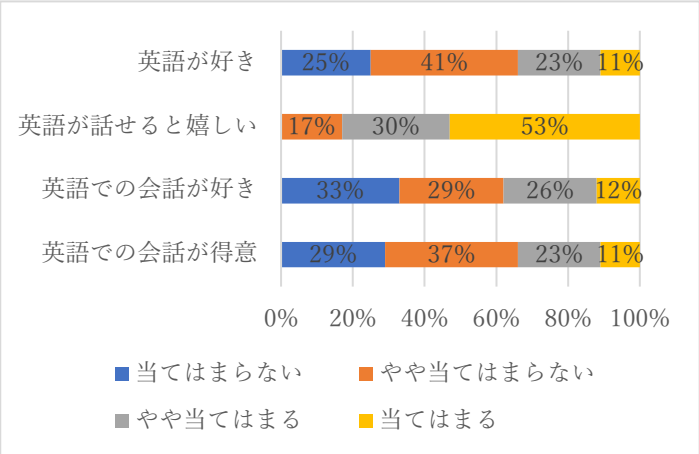
（1）自分自身の課題から

教員3年目となった。児童と共に過ごし,楽しいことや時には辛いことも経験しながら生活を送っている。英語は,指導案や単元計画を見ながらそれに沿って授業をしている。しかし,英語の専科としてそれでよいのかという疑問があった。大垣市は英語教育に力を入れて教育をしているため,たくさんの素晴らしい先生方の実践に触れることができる。その中で言語活動を工夫している姿や,振り返りカードを活用して児童の主体性を育てている授業を見ると,自分は英語の専科でありながら,児童にこうなってほしいという明確な思いをもって授業をしていないことに反省をした。そして,同時に悔しい気持ちになった。児童は教員を選ぶことができない。だからこそ,自分が担任になったからには,英語でのコミュニケーションのよさを味わってもらいたい。そして,英語を好きになってもらいたい。そのために今の自分には何ができるかを考え,1年間を通して取り組んでみたいと考えた。

（2）児童の実態から

4月,6年生になったばかりの児童に英語に対してアンケートを行った。①英語が好き②英語が話せると嬉しい③英語での会話が好き④英語での会話が得意の4項目の結果は次のようになった。(表1参照)

〈表1〉アンケート結果



「英語が好きである」と回答した児童は全体の 34%と半分にも満たない結果だった。しかし,驚いたことに 83%の児童が「英語が話せると嬉しい」と回答した。その理由として,「苦手だからこそ話せると嬉しい」という内容が多かった。また,会話も多くの児童が抵抗感をもっていた。そこには「英語を話すことができないから」「英語が分からないし,正しく話せないから」という思いがあった。中には「英語が嫌いだから」「英語が楽しくないから」と英語そのものに抵抗感をもっている意見もあった。英語が苦手で分からない児童にとって話したいことはあるが,話せない時間は辛い時間となっている。児童が英語や英語を話すことを好きになるためには,「楽しい」と思え

る活動を多く仕組み,その中で自分の思いや考えを伝え,話せるという達成感をもってもらうことが必要だと考えた。そして,その達成感が嬉しさにつながり,最終的には楽しさに変わると見通しをもった。そこで,コミュニケーションツールの１つとしてタブレット端末を活用することを考えた。児童はタブレット端末を楽しいものと考えており,他の教科でも,調べ学習などに取り組む際には意欲的に取り組んでいる。また,コンピュータや情報通信ネットワークの活用に関して,小学校学習指導要領外国語では,

> 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態,教材の内容などに応じて,視聴覚教材やコンピュータ,情報通信ネットワーク,教育機器などを有効活用し,児童の興味・関心をより高め,指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。
> 小学校学習指導要領　（平成２９年告示）外国語活動・外国語

と示されており,ICT 活用の利点としては

> ①【言語活動・練習】
> →児童生徒の言語活動の更なる充実と指導・評価の効率化
> ②【交流・遠隔授業】
> →遠隔地・海外とのコミュニケーションと災害など非常時への対応
> ③【コンテンツ・授業運営】
> →興味・関心,学習の質を高める
>
> 文部科学省「外国語指導における ICT の活用について　」 https://www.mext.go.jp/content/20200911-mxt_jogai01-000009772_13.pdf（最終アクセス 2021 年 12 月 5 日）

の３点があげられている。タブレット端末は児童の伝えたいという思いを具体化するツールとしてや,興味・関心を高める学習内容の作成として最適であると考えた。

２.研究仮説

> タブレット端末を活用することで,児童の「話したい」「伝えたい」という思いを具現化することや,興味・関心を高める学習内容の作成が手軽となり,コミュニケーションに対する抵抗を減らして,楽しみながら英語を主体的に取り組む児童が増える。

３.研究内容

研究仮説を踏まえ,「話したい」「伝えたい」を具体化する工夫と興味・関心を高める学習内容を取り上げていく。

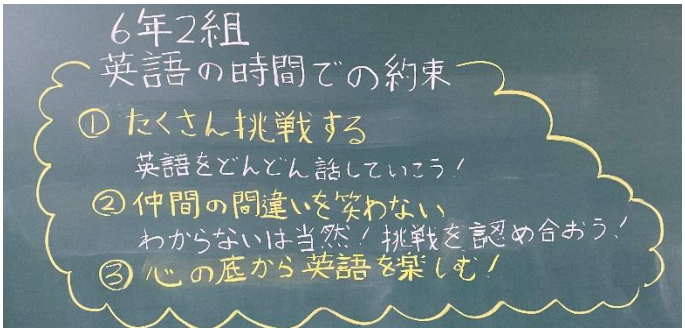
> **（１）児童の意識改革**
> **（２）「話したい」「伝えたい」を具体化する工夫**
> ①タブレット端末の活用の利点
> **（３）興味・関心を高める学習内容**
> ①海外のよさを伝える授業実践
> ②工夫や思いを伝える授業実践

４.研究実践

（１）児童の意識改革

アンケート調査の後すぐに,児童の英語に対する意識を変えたいと考えた。アンケートの結果から児童にとって英語が話せるとは「ALT とスムーズに会話をすることができる。」「間違えることなく,英語を話すことができる。」「海外に行ったときに困らない。」などとても高いレベルがあげられた。確かに英語をそのように話せることは素敵なことである。しかし,その結果,「間違えた英語を話してはいけない。」「正しい英語しか使ってはいけない。」などの限定的な考え方をもつ児童が多くいた。そこで,４月最初の授業では英語の時間内での約束を決めた。

〈写真１〉



この約束を作成する過程で児童が驚く姿があった。また,振り返りカードには,「英語を楽しむという考えがなかったので,これからは授業を楽しみたい。」や「ミスをおそれずに積極的に英語を使っていきたい。」などの前向きな感想が書かれていた。クラスの英語の約束を作ることで,児童の英語に対する意識改革をすることができた。

（２）「話したい」「伝えたい」を具体化する工夫

①タブレット端末の活用の利点

> 実践例：Unit1　This is me!

This is me! では,単元を通して,

I'm ～.　I'm from ~.　My birthday is ～.　I like~.

の表現を使いながら,自分のプロフィールカードを紹介する活動が単元のまとめとなっている。

教科書の指導案では,巻末のコミュニケーションカードを作成し,お互いに見せながら紹介することになっているが,カード作成の際に,オクリンクを活用した。児童は紹介したいこと１つにつき１枚絵を描き,それをつなげてプレゼンテーションを作成した。作成する過程でタブレット端末のよさを感じる様々な児童の行動があった。

児童①	プレゼンテーションのつなげる順番を組み替えた。
児童②	活動中にイラストを見ながら,話を理解していた。

児童①では,考えの整理に便利であることを学んだ。児童の実態を踏まえると頭の中で伝えたい表現を整理して,即興的に会話する活動を４月時点から行うと,英語に対してより抵抗感が高くなってしまうのではないかと感じた。そのため,①何を伝えたいのかを考える。②それにあったスライドを作成する。③どのような順番で話すか決める。という３ステップに分けてプレゼンテーションを作るようにした。児童はプレゼンテーションを作成するなかで,好きなものの絵を並べて,１番好きなのは犬だから I like~の表現では犬を最初にするなど事前に頭の中を整理して,コミュニケーションに取り組むことができた。また,オクリンクはスライドの並び替えが簡単にできるため,直前で順番を変える児童もみられた。このように,プレゼンテーションを並び替えることを通して,伝える内容を整理できたため,児童はスムーズに英語を話すことができた。

児童②からは,絵やイラストを活用することで,内容を理解する手助けになることが分かった。まとめの活動では,タブレット端末を手で持ちながら,紹介するたびに,スライドを変えて交流を行った。そこである児童はこのような自己紹介をした。

児童　：Hello! I'm ＿＿＿. I'm from Ogaki. My birthday is November 11th. I like sharks.
児童　：I like killer whales.

「killer whale」は授業の中で扱っていないため,ほとんどの児童は単語の意味を知らなかった。しかし,イラストがあったため,「killer whale」が「シャチ」を意味する単語ということを理解することができた。イラストを描いたことによって,児童は自分の本当に伝えたい内容を伝えることができ,聞く側は単語がわからなくても,イラストから内容を理解することができた。

Unit1 は,教師にとっても,児童にとってもタブレット端末を活用した最初のコミュニケーション活動であった。そして,児童は,タブレット端末を活用して,楽しみながらコミュニケーションをとることができたのではないかと考える。活動後,児童に話を聞くと

・タブレットを使って交流するのが楽しかった。 ・英語で自分の思いを伝えることができたので嬉しかった。 ・友達のイラストを見ながら活動できたので面白かった。 ・来週も自己紹介をしたい。

などタブレット端末を活用することに意欲的な意見が聞けた。タブレット端末が楽しいという意見だけではなく,英語で思いを伝えることができる楽しさを感じることができた児童もみられた。様々なよさを学ぶことができ,タブレット端末の可能性を感じた。

（２）興味・関心を高める学習内容

①海外のよさを伝える授業実践

実践例：Unit3　Let's go to Italy.

Let's go to Italy.では,まとめの活動として自分のおすすめの国を紹介する。本単元では,自分の旅行会社を作り,自分の好きな国を写真と共に紹介して,聞き手に魅力を伝える活動を単元のゴールとした。

児童の興味・関心を高める活動として,毎時間の Today's Topic では,担任やＶＥＴ,ＡＬＴが行ったことある国を自分が写っている写真と共に紹介した。様々な国の建物や食べ物を写真で提示し,どこの国なのかを Picture Dictionary p.16 を活用して予想した。正解すると Google Map のストリートビュー機能を活用し,実際に建物の周りを歩くなどして,旅行気分を味わった。

〈図２〉単元構成
（まとめの活動がある第６時まで）

時間	内容
１・２	・まとめの活動と単元を通して,何ができるようになるかの確認。 ・世界の国々の有名な建物や食べ物のやり取りを聞き,およその内容を理解する。
3	・おすすめの国のどのような内容を紹介したいのかをまとめ,表現を考える。
4	・おすすめの国とその理由を尋ね合う。尋ね合う中で伝えたい内容を整理する。
5	・プレゼンテーションの作成。 ・Small Talk などのやり取りの中で表現の確認。
6	・おすすめの国を紹介し,交流する。
モジュール	・世界の国について調べ学習。 ・Small Talk による表現の確認。 ・プレゼンテーションの作成

興味・関心を高める活動として,単元の導入部分に力を入れた。第１・２時では,単元の見通しをもたせるために何ができるようになればよいかの確認をした。担任や VET,ALT が Topic 紹介の中でおすすめの国を紹介すると「すごい！行ってみたい！」や「きれい！」などの声が上がり,世界の様々な建物や食べ物に興味をもつことができた。また,自主的に世界の国々について書かれた本を図書室から借りて,プレゼンテーションの内容を考える児童の姿も見られ,意欲的に活動するきっかけにすることができた。第３時では,調べた内容をもとに英語での表現と伝えたい内容を考えた。以下はある児童との第３時でのやり取りである。

児童 ：韓国について紹介したいです。
教師 ：どんな魅力を紹介したい？
児童 ：ビビンバやプルコギとかの韓国料理を紹介したい。けど,これは建物や食べ物以外はダメですか？
教師：いいよ。どうして？
児童：ＢＴＳについて紹介したい。
教師：いいね！でもお客さんにいきなり紹介したらびっくりさせちゃうね。
児童：ＢＴＳを知っていますか？って聞けばいいかな？どうやって言えばいいですか？

活動に幅をもたせることで,自分の興味・関心があるものを活動に取り入れることができた。また,それだけではなく,お客様におすすめの国を紹介するという場面を考え,どのような表現を加えたら会話が自然になるのかを児童自らが考えることができた。
まとめの活動で児童は以下のやり取りをした。

A：児童 A　　B：児童 B
A：Hello!　　B: Hello!
Welcome to my shop.
Korea is a nice country.　　B: Oh! Korea!
You can eat bibimbap.
You can eat bulgogi.　　B: I like bulgogi.
You can see the Soul Tower.　　B: Oh, good!
Do you know BTS?　　B: Yes!
They are BTS.
He is ○○.　He is ○○.・・・
（メンバーを紹介する）
They are from Korea.
Do you like BTS?　　B：Yes !
You can go BTS shops.　　B：Good!
Thank you for listening.

They are from ~.の表現は Unit 1 で学んだ表現である。BTS を紹介するために,既習内容を思い出し,紹介することができた。自分の伝えたい内容を伝えることができたため,振り返りカードに児童は「好きなことを英語で伝えられて嬉しかった。楽しかった。」と活動を通して,達成感を得ることができた。

この他にも,自分の行ったことある国を紹介して,感想を加えながら紹介する児童など,それぞれが興味・関心を高めながら活動を行うことができた。

単元の最後には「６年２組　旅旅行」という架空の番組を制作した。担任のタブレットで Zoom のバーチャル背景機能を使い,現地からおすすめの国を紹介する風の動画を作成した。エッフェル塔を紹介するときには背景がエッフェル塔に変わるなど紹介した文章で簡単に映像を作ることができ,児童は面白そうに Unit 3 での活動を振り返った。

この活動は１学期の英語実践の集大成であった。児童はタブレット端末の使い方にも慣れ,自分の思いを伝えられることに喜びを感じる場面がたくさんあった。また,自分の好きなものや経験を英語で話せることで,主体的に活動に取り組む姿が多くみられた。

②工夫や思いを伝える授業実践

実践例：Unit 6　Let's think about our food.

児童の工夫や思いを英語で伝えるように取り組んだのが Unit6 の実践である。本単元では,自分のオリジナルパフェを作成し,仲間に果物の産地や値段などのアピールポイントを伝え,最後にクラス No.1 パフェを決めることをまとめの活動とした。加えて児童がより主体的に取り組めるように,No.1 パフェになったものは後日担任が同じようにパフェを作成することを伝えた。その言葉に児童の目は輝き,No.1 パフェに選ばれたいという思いを強くもつことができた。

ワークシートを作成する前に児童に自分だったらどのようなパフェを選ぶのかを考えさせた。すると,

①たくさんの果物を使用している。
②日本や身近でとれる果物を多く使用している。
③値段が高すぎず,安すぎないもの。
④見た目が面白く,豪華なもの。

という意見がでた。No.1 パフェに選ばれるためのポイントを明確にしたことで,児童は作成の際に仲間の考えを考慮しながら,活動に取り組むことができた。様々な果物をふんだんに使ってパフェを作る児童や,岐阜県産のいちご「濃姫」を使用したもの。ワンコイン（500 円）という値段設定を先に決めて,その中で使えそうな果物を考えながら作る児童など様々な工夫を見ることができた。

（写真２）

工夫や思いがたくさんでてきたが,それを英語で伝えられないため,あきらめてしまうということがないよう,本単元では,Small Talk を授業内やモジュールの中で継続しておこなった。児童が「どのように言えばいいのか,わからない。」と質問に来た際には,全体に共有して,みんなで考えたり,わからないことを学習プリントに書いて提出してもらうことで事前に伝えたい思いを把握して,表現を確認することができた。まとめの活動当日は,児童が No.1 になろうと張り切っている様子がとても伝わった。児童は自分のパフェのよさを少しでも多く紹介しようと,使用したフルーツ名や産地を全部紹介したり,「This strawberry is Nohime. From Gifu.」「It's 600yen. Very cheap.」などアピールポイントを今までの Small Talk から学んだ表現を使って一生懸命伝えた。45 分の授業では,全員と交流することができなかったため,児童自ら「もう１時間やりたい」と言う声を聞くことができた。児童にとって楽しい活動であるとともに,主体的に取り組みたいという意欲的な態度の育成にもつなげることができた。

（写真３）

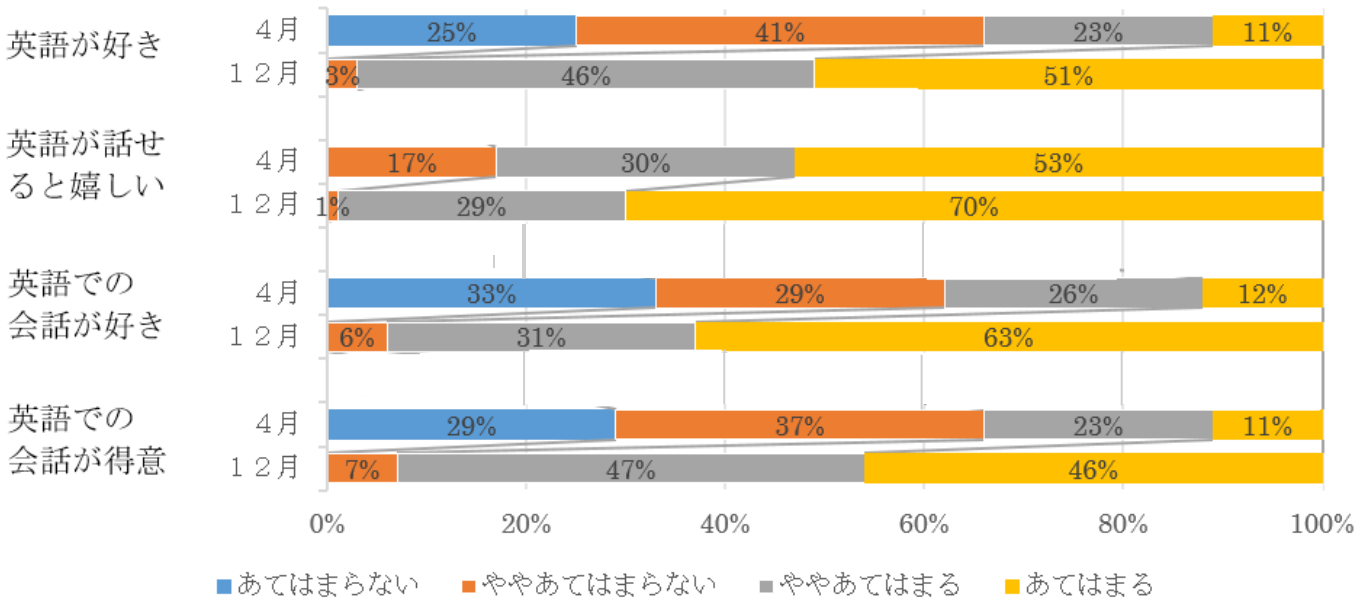
単元の最後には,１組・２組でNo.1 になったパフェを作成し,交流した授業風景やパフェの作成風景を編集して動画にし,学習内容を振り返った。児童はテレビの前に集まり,仲間と笑いながら楽しそうに映像を眺めていた。映像を見た後は拍手が起き,「楽しかった」「次は別の物で紹介したい」「次はどんな活動をするの？」などという明るい意見を聞くことができた。

２学期の学習が終わり,１２月に４月に実施したアンケートと同様のアンケートを行った。

結果は次のようになった。〈表２〉

英語が好きであると答えた児童は 97%と大きく増えた。また,話した内容が伝わったことにより,英語が話せると嬉しいと感じる児童も 99%ととても大きく増えた。活動の中で英語が伝わる喜びを感じ,英語を好きになることができたのだと考える。

〈表２〉　アンケート結果



5.成果と課題

（1）児童の意識改革

〇約束をクラスで決めることにより,英語に対する抵抗感や「英語を間違えてはいけない」という認識を変え,挑戦しようとする気持ちをもたせることができた。その結果,会話に対しての抵抗を減らし,会話が好きという児童が９割を超えた。

▲約束を単元ごとにふり返って,意識を継続させる必要がある。

（2）タブレット端末の利点

〇プレゼンテーションや画像,地図,映像など表現活動においてたくさんの選択肢が選べ,児童の活動内容を大幅に広げることができた。絵やイラストが英語を伝える助けとなり,話せる嬉しさを感じた児童が 99%と多くなった。

▲交流では,プレゼンテーションに目がいってしまうため,アイコンタクトや質問を多くするなど,相手を大切にした聞き方について考える必要があった。

（3）興味・関心を高める学習活動

〇教科書に沿った指導も大切だが,教科書を基に単元の構成を子どもの実態に合わせて工夫することで,より主体的に取り組むことができる。

▲前時で学んだ表現を再び取り入れることで話す内容を意図的に増やしていく必要があった。

6.おわりに

タブレット端末を活用することで,児童が手軽に話したい思いを表現したり,学習内容に幅が広がった。新しい物を取り入れることは不安であるが,試行錯誤しながら挑戦してみることが大切だと学んだ。児童にとって英語でタブレット端末を活用したことは目新しいことであった。だからこそ新鮮で英語が面白く,楽しく感じられた。来年度も,様々な取り組みや研究実践を学び,タブレット端末の良さと合わせることで,主体的にコミュニケーションを図り,英語が好きになる児童をより増やしていきたい。

7.参考文献

・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示)』
・文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年度告示）解説外国語活動・外国語編
・文部科学省『外国語の指導におけるＩＣＴの活用について』

講評欄